

ったり、市民の護衛・警備の役割を行っております。

#### 4. むすびに

要するに、現在のロシアでは、企業家・政治家・政府・警察すべての権力者が腐敗し、暴力的手段が広範に拡大しております。犯罪組織が政治の場にも進出する一方で、政治家や経済人が組織犯罪に手を染めるといった状況が発生しております。

ロシアは、残念ですが、国家として社会として犯罪が増加し横行する状態に至っております。これは、私個人の考え方です。私は悲観的な考え方をする人間です。

ストニア・ラトビア・リトアニアに関しては資料を持っておりませんが、それを除けば、世界最高の数値であって世界最悪の事態ではないかと思えます。ロシアでは、一人当りのアルコール消費量も世界一です。それは習慣や寒い気候のみに起因するのでしょうか。その一方では、死者の数は増加を続け、出生率や平均寿命は低下し続けています。

### 3. ロシアにおける組織犯罪の激化

ロシアにはかなり昔から組織犯罪がありましたが、現代の組織犯罪はシンジケートを構成しシステムとして企業犯罪という形態に改変されており、組織犯罪には、多様な形態があり、例えば、不法な経済活動を行うもの、麻薬密売などの犯罪活動を行うもの、そしてテロリズムなどの活動を行う政治的組織犯罪もあります。しかし、大局的に見ると、組織犯罪には三つの組織レベルがあるといえます。

第一が、「犯罪集団」(グループ)です。

第二が、「犯罪組織」です。

第三が、「犯罪共同体」(コミュニティ)です。

例えば、首都ペテルスブルクには、四つのマフィアと同様の「犯罪コミュニティ」があり、数十の「犯罪組織」、そして数百の「犯罪グループ」があります。

ペテルスブルクやロシアの他の都市における産業は、マフィアの系列によって独占され分割されているという状況です。ペテルスブルク等の都市のビジネスマンの言うところによると、その商業活動は100%マフィア等の犯罪組織の手に握られているそうです。

ロシアにおける組織犯罪の権力の及んでいる範囲について説明しますと、例えば銀行などの企業の46%が組織犯罪によって支配されています。このような犯罪活動で上がった非常に高い収益が犯罪組織に帰属して、犯罪を再生産させます。また組織犯罪は、法を執行する警察官の代理代行のような機能も果しております。例えば市民間の紛争の仲裁を行

## IV ロシアの組織犯罪

### ——新しい状況への悲観的な考察——

Dr. Yakov Gilinskiy, Prof.

(ロシア科学アカデミー社会科学研究所犯罪学部長)

#### 1. ペレストロイカ後のロシア

ロシアは、依然として社会的にも経済的にも政治的にも困難な情勢にあります。ゴルバチョフ前大統領がペレストロイカを導入し、それが様々な政治的影響をもたらしています。

その一つの例が、今私がこうして皆さんに講演をすることができるようになったということです。それでも、非常に残念なことです。現在ロシアは一步一步後退をしている状態にあります。そして政権・権力は、増々旧来のノーマンクラートルに戻されている状況にある。汚職も、ロシア全土に拡大しており、かつてない程の劣悪な状態にあります。「すべての権力者が腐敗している」という現状にあります。再び全体主義的な政治に逆戻りしている状態にあります。それはチェチェンにおける紛争にも見られるところです。

#### 2. 貧富格差の拡大と殺人自殺の激増

国内では、経済力の格差が拡大し、「富める者と貧しい者との差」が一層増大しています。そこに新しいタイプのロシア人が誕生し、それが犯罪の増加に向っています。その結果、犯罪その他の不法行為が社会に氾濫しています。

例えば、10万人当たり何人が殺害されたかという殺人率の統計によると、1987年には6.3人であったものが、1995年には21.4人に急増しています。これは異常に高い水準でして、ヨーロッパの他の諸国そして日本・カナダ・アメリカを上まわっています。また、自殺者の統計数値ですが、同じく10万人当たりでは、1987年には23人であったものが、1995年には45人に倍増しております。旧ソビエト連邦に属していたエ